

大阪大学大学院薬学研究科 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開

1. 研究課題名	尿路性器癌に対する新たな診断マーカー・治療標的分子の探索に関する研究
2. 研究責任者 (所属・職位・氏名)	大阪大学大学院薬学研究科・講師・神宮司 健太郎
3. 倫理審査と承認日	【承認日】2024年9月4日 【審査】大阪大学大学院薬学研究科・薬学部臨床研究倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長の承認を得て実施する。
4. 研究実施期間	2024年4月2日～2026年3月31日
5. 共同研究機関および 各施設の研究責任者 (※多機関共同研究の場合記載)	(所属機関・部署・職) 大阪大学大学院・医学系研究科器官制御外科学(泌尿器科)・教授 (氏名) 野々村 祝夫
6. 研究の目的・意義	前立腺癌をのぞく尿路性器癌における診断は腎癌・尿路上皮癌をはじめとして確立されたマーカーは存在していない。特に、腎癌・尿路上皮癌に対するスクリーニングとなる血中・尿中癌診断マーカーや、各癌における進行度を反映する癌悪性化マーカーは現在のところ確立されておらず、確立されたマーカーを探索することは早期癌を発見することや腫瘍深達度を診断、治療効果判定をする意味で急務である。この研究を通して癌部・非癌部および早期・進行性の臨床情報との相関を検討し、新たな尿中・血中マーカーを探索することを目的とすることから意義深いものと考えられる。さらに腎癌・尿路上皮癌の分子標的治療薬の創製は新たな治療法につながり医学的意義は大きい。そこで本研究では、最新の質量分析装置により尿路性器癌術後検体における代謝物、RNA修飾、細菌DNAやタンパク質の網羅的な解析を行い、癌マーカー候補や癌標的分子の探索を行う。そして予後情報から、予後異常につながる代謝物、代謝経路、RNA修飾、細菌情報を同定することを目的とする。本研究により、尿路性器癌患者の予後診断や治療法選択への情報提供につながることを期待できる。
7. 対象となる試料・情報、その取得期間、利用方法	対象となる試料・情報:診断・治療目的で採取した尿路性器癌組織の余剰組織や血液、尿を含めた体液・年齢、性別、癌の性質等の臨床情報、取得期間:2024年4月2日～2027年12月31日、利用方法:診断・治療目的で採取した尿路性器癌組織の余剰組織や血液、糞便、尿を含めた体液検体を用い、microRNA、mRNA、メチル化、RNA修飾、細菌叢を含む代謝物の各アレイ解析やタンパク発現解析に利用する。
8. 利用または提供する試料・情報の項目	この研究で利用する情報は、年齢、性別および臨床関連情報(癌の性質)の他、尿路性器癌患者から取得され、保存されている組織、血液、尿、糞便試料の遺伝子の質や量、並びにタンパク質の質や量の情報。
9. 研究対象者またはその代理人の求めにより、研究対象者が識別される資料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止すること及びその方法	ご自身の試料・情報を研究に利用されたくない方は、連絡先までその旨お知らせいただければ、解析対象から削除いたします。
10. 研究資金・利益相反	研究資金:科学研究費補助金 基盤研究C、利益相反:利益相反については遵守する
11. お問い合わせ先	大阪大学大学院薬学研究科・講師・神宮司健太郎 【連絡方法】メールでの問い合わせ jingushi-kk@phs.osaka-u.ac.jp